

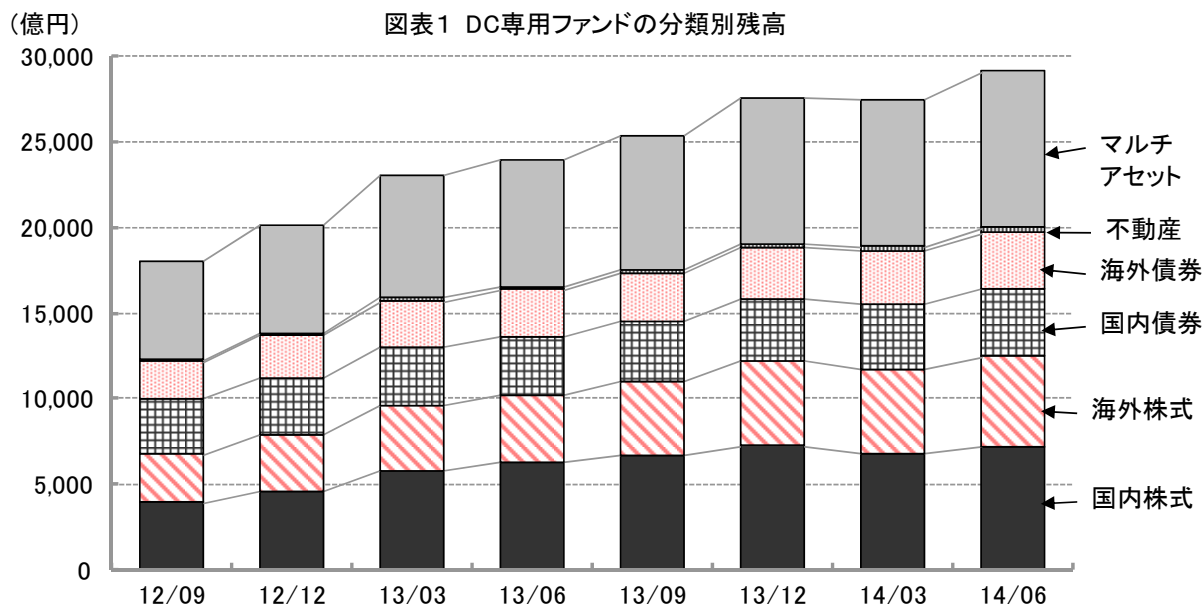
### 確定拠出年金専用ファンドの動向(2014年6月)

2014年度第1四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は前の四半期に比べ、1,704億円増加し、2兆9,100億円に達しました。収益率は全てのファンドでプラスとなり、不動産投信型や国内株式型では特に高いパフォーマンスとなりました。資金流入を見ても確定拠出年金専用ファンドは全ての分類において資金が純流入となりました。マルチアセット型への流入額は多く、その一種であるリスクコントロール型と呼ばれるファンドへの資金流入が最近目立って増えてきています。

#### 確定拠出年金専用ファンドの残高

2014年度第1四半期(4月～6月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信<sup>1</sup>の残高は前四半期に

比べ1,704億円増加し、2兆9,121億円になりました。今までの最高額である2兆7,552億円を上回り、3兆円に迫っています(図表1)。



出所)野村総合研究所

<sup>1</sup> DCにおける投信残高の凡そ9割は、DCだけのために特別に設定されたDC専用ファンドといわれています。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

ファンド分類別にみると、前四半期末に比べ、全ての分類で残高が増加しています(図表2)。特に増加額が多いのは、マルチアセット型で、599億円も増加しています。また国内株式型や海外株式型でも増加額が目立っており、それぞれ402億円、307億円増えています。

分類別残高構成をみてみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の31.4%を占めています。2番目に残高の多い国内株式型は全体の24.7%ですので、上位2タイプだけで全体の56%を占めていることとなります。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ42.7%、24.9%となり、前の四半期に比べて、それぞれ0.1%、0.3%減少しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、38.4%であり、前四半期から0.1%減っています。海外資産を中心に運用するファンドも前四半期から0.3%減少し29.2%になっています。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は、73.6%となっています。パッシブファンドの割合は2012年度第1四半期(2008年6月末)の74.5%から昨年末の72.7%まで徐々に低下してきましたが、前四半期以降、増加に転じています。

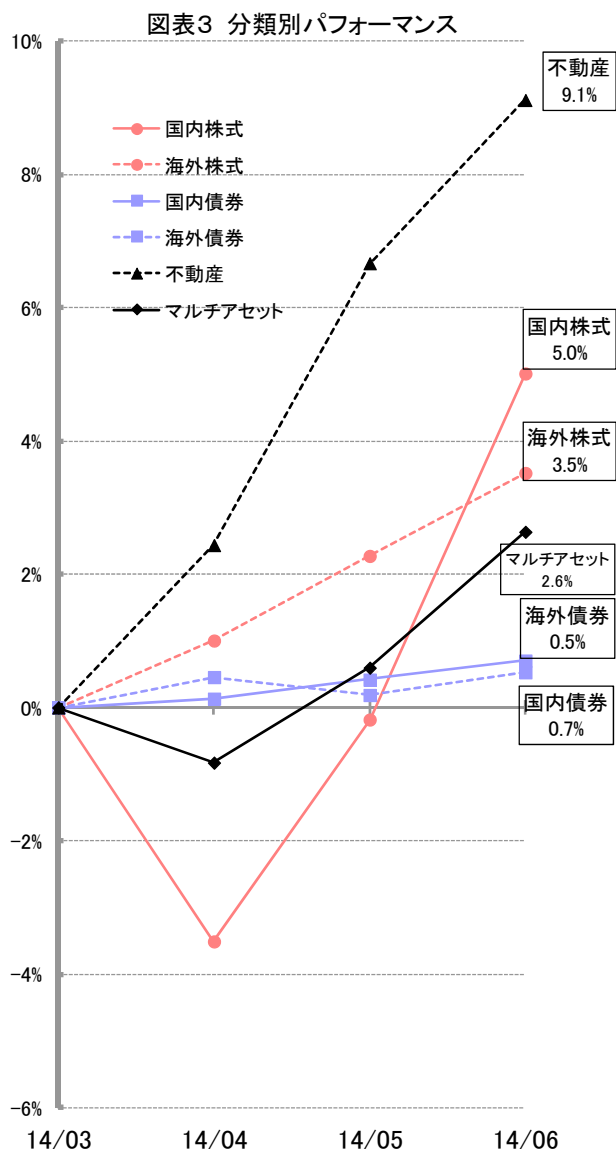
図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	12/09	12/12	13/03	13/06	13/09	13/12	14/03	14/06
国内株式	3,919	4,600	5,732	6,270	6,709	7,231	6,788	7,190
アクティブ運用	1,512	1,778	2,199	2,428	2,613	2,863	2,666	2,822
パッシブ運用	2,407	2,822	3,533	3,842	4,097	4,367	4,122	4,368
海外株式	2,849	3,259	3,831	3,936	4,246	4,913	4,947	5,255
アクティブ運用	738	835	980	1,010	1,092	1,262	1,256	1,316
パッシブ運用	2,111	2,424	2,850	2,925	3,154	3,651	3,691	3,939
国内債券	3,253	3,337	3,432	3,411	3,520	3,635	3,776	3,995
アクティブ運用	534	544	557	548	565	580	600	619
パッシブ運用	2,719	2,793	2,874	2,863	2,954	3,055	3,176	3,375
海外債券	2,157	2,490	2,664	2,743	2,810	3,053	3,125	3,245
アクティブ運用	331	372	391	397	406	429	438	448
パッシブ運用	1,825	2,118	2,273	2,346	2,404	2,624	2,687	2,797
不動産	108	131	229	187	215	225	229	287
マルチアセット	5,745	6,345	7,181	7,428	7,867	8,496	8,551	9,150
バランス型	5,615	6,201	7,013	7,250	7,661	8,239	8,242	8,747
ターゲットイヤー型	88	95	108	113	121	132	133	142
アセットアロケーション型	43	48	60	65	85	125	176	262
残高合計	18,032	20,161	23,068	23,976	25,367	27,552	27,418	29,121
残高割合								
国内株式	21.7%	22.8%	24.8%	26.2%	26.4%	26.2%	24.8%	24.7%
海外株式	15.8%	16.2%	16.6%	16.4%	16.7%	17.8%	18.0%	18.0%
国内債券	18.0%	16.6%	14.9%	14.2%	13.9%	13.2%	13.8%	13.7%
海外債券	12.0%	12.3%	11.5%	11.4%	11.1%	11.1%	11.4%	11.1%
不動産	0.6%	0.7%	1.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	1.0%
マルチアセット	31.9%	31.5%	31.1%	31.0%	31.0%	30.8%	31.2%	31.4%

出所)野村総合研究所

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。



### 分類別パフォーマンスの推移

図表3は2014年度第1四半期中におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。見て分かるように、全ての分類で収益率はプラスになりました。東京のオフィスビルを中心に賃貸料が上がり始めたことなどを背景に不動産投信の価額は9%以上も上昇しています。また4月に下落した国内株式にしても、5月後半以降、相場は好転し、四半期では+5.0%となりました。海外株式は、堅調な米国株式に引っ張られ、徐々に上昇し四半期で+3.5%となっています。株式や債券に分散投資するマルチアセット型は、国内株式が不調だった4月に収益率がマイナスとなりましたが、その後持ち直し、四半期では+2.6%となりました。

### 分類別資金純流入額の推移

図表4は、2013年度第1四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額-解約額)の推移を表したものです。

今年度になって上場企業の中で特に規模の大きな企業グループがDCを導入した影響もあり、当四半期のDC専用ファンド全体への資金純流入は過去2番目に多い891億円となりました。この内訳をみると、ファンドの購入に当たる設定が2,043億円、解約が1,152億円となっています。

出所)野村総合研究所

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	13/04~ 13/06	13/07~ 13/09	13/10~ 13/12	14/01~ 14/03	14/04~ 14/06
国内株式	-34	47	-103	84	58
海外株式	-97	7	14	87	132
国内債券	37	67	111	115	192
海外債券	-2	25	10	60	103
不動産	-16	14	4	7	36
マルチアセット	-40	131	119	243	370
資金純流入合計	-153	292	155	596	891

出所)野村総合研究所

### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

分類別にみると、全ての分類において純流入はプラスになっています。中でもマルチアセット型への資金流入は370億円と突出して多くなっています。マルチアセット型をもう少し詳しくみると、バランス型<sup>2</sup>投信に282億円流入し、そのほかリスクコントロール型<sup>3</sup>と呼ばれる投信にも50億円以上流入しています。リスクコントロール型は比較的最近になって設定されたファンドで、昨年度第2四半期以降資金流入が増えています。

マルチアセット型以外では、海外株式型や国

内債券型、海外債券型への資金純流入も多く、それぞれ100億円を超えています。これらに比べ国内株式型への資金純流入額は58億円と少ない額に留まっています。実は設定額だけでみれば国内株式型が一番多く500億円を超えており、株式を売却する人が多かったことが分かります。従ってDC加入者全体で見ると、価額の上昇した国内株式ファンドから、それほど価額が上がらなかった国内債券型や海外債券型へ資金を移し替えるリバランスを行っているようにみえます。

弊誌の記事はバックナンバーも含めてホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

**編集:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、  
野村資本市場研究所、野村総合研究所

**発行:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター  
(年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル

**TEL:** 03 (6703) 3991

**FAX:** 03 (6703) 3981

**Email:** [nenkin@jp.nomura.com](mailto:nenkin@jp.nomura.com)

— 次号のお知らせ —

次号は

**8月11日(月)**

発行予定です。

<sup>2</sup> 複数の資産クラスに投資し、その配分比率を一定に保って運用するタイプ。

<sup>3</sup> 相場状況に応じて資産クラスの配分を変動させることにより全体のリスク量を制御するファンドタイプ。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されました御客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

## 野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合は、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会／日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会